

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 22  
2019・9・15

1 ドイツ連邦議会：2020年度食料・農業省の財政案を審議

ー農業のデジタル化と研究、革新が重点ー (2019・9・10)

ドイツ連邦議会は、2019年9月10日に2020年度財政の連邦案について、第一読会（訳注・法案の審議過程・通常第1から第3読会まで）において審議された。連邦食料・農業省（BMEL）は、個別プラン10において約65億ユーロ（約7800億円）の財政案を提出している。これは2019年度財政よりも、1億9400万ユーロ（約232億円）多い。

連邦大臣クレックナーは、連邦議会におけるこの予算案の審議に際して、2019年7月始めの閣議で強調していた：私は補償、革新と信頼性を伴った農業のさらなる発展をさせたい。連邦農業省の財政案は、国際共同研究並びに革新の奨励のための追加的な財源を計画している。有機農業と農業の他の持続的な形態に対する財源は増額されている。さらに明確なアクセントは、新たに開始された農業のデジタル化のプログラムによる持続性、研究と革新にしっかりとおかれている。

デジタル実験分野のスタートのために、2250万ユーロ（約27億円）を計画している。農業者は昆虫保護の実践に際して、5000万ユーロ（約60億円）をもって支援される。家畜における動物福祉のために倍化された財源をもって、家畜保護のために重要な貢献を果たす。連邦プログラム家畜飼育は、公的な家畜福祉表示の市場導入を、補完的に側面から支える。家畜保護の領域におけるさらなる政策は、前年水準で継続される。

財政支出の目的

単位：100 万ユーロ

農業の社会福祉政策（1001 章）	4111.0
健康上の消費者保護と食料（1002 章）	212.6
EU-共同課題・農業構造と海岸保全の改善（1003 章）	965.0
市場秩序、緊急時の事前対策（1004 章）	150.2
持続性、研究と革新（1005 章）	469.8
国際政策（1006 章）	75.9
その他の認可（1010 章）	-90.9
予測される主要な行政課題（公的年金、見本市等）（1010 章）	126.4
連邦省経費（1012 章）	119.4
所管業務分野(研究施設等)（1013-1016 章 1018 章）	379.0
個別プラン 10 合計	6518.1

2 プレス情報：食品の浪費が減少（2019・9・12）

ー 2030 年までに食品ゴミを半分にー

親愛なる国民の皆さん！

我々の食品の価値評価は、数年来強化するために連邦食料・農業省（BMEL）の課題に属している。そして我々の大臣クレックナーの大きな関心事でもある。閣議は、今年 2 月に連邦食料大臣から提案された食品廃棄物の削減のための、戦略を決定した。我々は 2030 年までに食品の浪費を、約半分に減少させる。

彼女は自らの報告について、以下の引用分を活用している：食品の浪費削減のための戦略は、価値創造チェーンの全ての関与者が義務を担っている。我々は全社会的課題の前に立っている。この課題は、このチェーンの中の 1 つのみで解決されるものでない。我々はあらゆる分野との共同で、まず第一に具体的な目標基準値を統一し、それをチェック可能とし遵守すること。そしてそれは、農業者から加工企業を通じて、卸一小売業、レストランと個人の家庭まで対象とする。

我々は全ての分野について、食品の浪費削減のための対策を推進する。例えば、農業は需要に合った生産を行うこと、食品製造者は食品のロスを少なくするために、製造プロセスの最適化に取り組むことである。目標に合った知見の伝達によって、末端消費者により多くの自覚と注意深さを促す。特にレストランにおいて、個人に適合した 1 人前の量に配慮すること。加えて我々は、食べきれない料理の持ち帰りのための、法的なハードルを無くすこと。

デジタル化でもって問題解決の助けとなる。例えば、Per APP が残った食品を、なお目的に合わせた”食卓”に引き渡すということが、将来的に可能とする。我が省は、食品浪費削減のためのこのプロジェクトを、150万ユーロ（約1億8000万円）でもって奨励する。各分野を超えたこの取り組みは、決定的な歩みである。我々は2030年までに、食品の浪費を半分化する。我々の戦略の明確な部分は、今ある法的な枠組み（例えば循環経済法、衛生規則など）で十分かどうかである。

食品の浪費に関する研究から明らかになったこと：

食品の半分以上が、個人の家庭から投げ捨てられている。またレストランで食事する多くの人々のように、これは個人の決定であり、そのため正に我々は、より多くの情報提供と意識向上を必要とする。ドイツにおける流通上での食品ゴミの割合は、基本的に他の分野よりも少なくなっている（約50万t、食品ゴミの全体量に対して4%）。

なぜならば、我々のところで数年来、数多くのスーパーマーケットで売り物にならないもの、しかしまだ食べられる食品を任意を基本に、食卓または社会福祉施設に提供している。この取り組みは、ドイツにおける食卓に年間26万t以上の食品を、約30000の食品流通ルートから救っている。フランスにおいて救われている食品量は、単に46200tである！これはドイツにおいて食卓によって救われている食品を、遥かに下回っている。

さらにドイツの多くのスーパーマーケットと、食品流通上の小さな店は、新しい社会運動・フードシェアリングで共同活動している。加えて他の店と商人によって販売していた「救われた食品」を、スーパーに供与している。これはもはや販売に適さないが、無料で持ち帰り、食べることができるものである。

食品ゴミの成果ある削減のために、目標となる数値を必要とする。このため、様々な調査・研究が存在する。いわゆる”2015年”について、基準値が公表されている。食品浪費のテーマに関する研究成果の概要と、その方法論上の相違を読み取ることができる。

### 3 ドイツにおける食品の浪費に関する新しい研究（2019・9・12）

— 一家庭からの食品ゴミが全体量の半分を占める —

ドイツの全食品供給チェーンにおいて、どのくらいの食品ゴミが発生しているのか。つまり、農業者から消費者の食卓までの食品の流れの中で。

この課題は、ドイツ連邦食料・農業省（BMEL）の委託で、ヨハン ハイน์ リッヒ チューリングゲン研究所（TI）が、シュトットガルト大学と共同で”ドイツにおける食料ゴミー 2015 年をバースラインに”の研究を行った。2019 年 9 月にこの研究結果が紹介された。

### 食品の供給チェーンの各分野別の食品ゴミの量

分 野	ゴミの量	割 合
最初の生産	1 4 0 万 t	1 2 %
食品の加工	2 2 0	1 8
卸—小売業	5 0	4
外食—家庭外での食事	1 7 0	1 4
家庭での食事	6 1 0	5 2
合 計	1 2 0 0	1 0 0

この研究に基づいて食品ゴミの量(生ゴミ量)は、約 1 200 万 t となっている。

- ◎ 一番最初の生産分野で 12%の割合（140 万 t）
  - ◎ 加工に際して、例えば温度管理の技術的な障害にによるものが 18%（220 万 t）
  - ◎ 流通において食品ゴミは 4%生じている。例えば分量に応じた包装の際、それに合わずに生じたものがゴミに（50 万 t）
  - ◎ 外食での食事提供に際して生じる食品ゴミ 14%（170 万 t）
  - ◎ 食品ゴミの大部分は個人の家庭で 52%生じている（610 万 t）
- 個人別には、年間 1 人当たり約 74kg の食品をゴミとして捨てている。

### EU-基準値による新しい研究のデザイン

この研究は、最初に生産者から消費者までの全食品ゴミを、組み入れた全体像を提示している。ドイツに関しては、その基準値が 2015 年に設定されている。これはドイツにおける研究の際に、活用できるデータベースになっている。ドイツは、EU に対して 2030 年まで継続して報告する。

この研究を反映させるために、今定期的に調査を行っている。データを集計し、そして考察するという方法は、EU-レベルで合意した取り決めした基準値を考慮している。ドイツは、既にデータベースによって出口の状況を明確にしている、数少ない国の 1 つである。

この研究の計画作成に際して明確なこと：

全体の食品供給チェーンに沿って計算するデータが、今日以前の年よりもより良く利用可能になるが、しかし、常にデータの不足を生じている。データの中で不足なのが、特に生産、加工そして卸—小売業の分野である。ここで全食品供給チェーンの関係者とともに、データ状況を改善することを、将来への洞察力にとって有効である。

### **これまでの研究結果との比較**

なぜ今、以前の研究が必要なのか？

この結果はドイツにとって、極めて重要である。先行する研究結果を、EU一域内で既に取り決めした基準と区分する。先行した研究は、全食品供給チェーンからの調査でなく、そのため、EU一報告書作成のための出発点のデータとして、用いられないからである。

### 4 ドイツ連邦農業省：2019年度ドイツ連邦園芸革新賞を授与

(2019・9・6)

革新的な着想と模範的な業績—これをもって、”2019年度園芸革新賞の3人の受賞者”は、我々を納得させた。連邦食料・農業省政務次官ハンス ヨアヒム フォイヒテルは、ハイルブロンにおける中央園芸連盟の「ドイツ園芸デー」で、2019年9月6日にゲルデルン、ドウダーシュタットそしてシュヴァイヒからの3経営が表彰された。今年のそれぞれの受賞者は、カテゴリー「作物」

「技術」「共同/経営組織/企業構想」において授与された。我々は以下のとおり、受賞者を紹介する。

#### **受賞者：**

カテゴリー「植物」

ペーレンス ホルテンズイン社 (Pellens Hortensien ノルトライン—ヴェストファーレン州)

色の安定した「アジサイミックス鉢」を商標名カラークラブで販売。

ミックス鉢で青果ある植物を生産したい人は、これを入念に選ぶべきである。

なぜならばこれはお客のみならず、生産者も魅力的にアジサイを、ミックスさせることに有効であるから。このより選り抜かれた植物は、同一の栽培条件のもとに共同で生産される。目的は消費者にミックス鉢をもって、長い喜びを提供することである。このアジサイは審査委員会の観点によれば、ペーレンス社が解決した植物栽培上、特別な挑戦である。消費者は、魅力的な色彩構成と色の安定した、かつ長持ちする鉢植えを手にする。

カテゴリー「技術」

ヨルク ライシュル (Jörg Reischl) 園芸経営 (ニーダーザクセン州)

プロジェクト EMMA – 可動システムの自動走行施設

園芸経営は、農場内の輸送のための経営構造と植物の品揃えによって、著しく人件費を生じていた。特に全自動でない経営は、この挑戦に立ち向かい、多くの労働力を適切に調整すべきである。ドイツにおけるヨルク ライシュル園芸経営は、移動システムの自動走行小型車両を開発した。これは机から輸送に自動的に引き継ぐ、移動手段のオートメーション化である。このシステムは、単純でかつ割安であり、そして経営進行の中で大きな支出なしに、組み入れることができる。

カテゴリー「共同/経営組織/企業構想」

ルクセンブルグ/トリアー地域果樹共同販売経営 (ラインラントプファルツ州) Vermarktungskoooperation Region Obst Luxemburg /Toier

15 年前トリアとルクセンブルグ地帯の果物農家が、この地域の名前でもって販売上の連携を行っている。この国境三角地帯の小売業のモーゼルフレンキッシュのラベルでもって、果物を市場出荷している。このプロジェクトでもって既に 2002 年以来、全価値創造チェーンを通じた経営グループが、地域的に協力しあっている。生産、販売そしてアドバイスを密にして、共同作業を行っている。高度に集中化されている食料分野において、選択的に販売ルートを開拓している。生産から消費者まで、全ての関係者が利益を得ている。

### **園芸革新賞：**

この賞は、1997 年以来毎年連邦食料・農業省 (BMEL) によって、授与されそして計 15 000 ユーロ (約 180 万円) の賞金を授与している。審査委員会は、以下の審査基準に基づいて提出された、貢献状況を評価する。

- ・革新性の質的高さ
- ・園芸業界の革新性の意義
- ・実践的な適応
- ・市場チャンス
- ・他の経営のためのモデル性

## 5 持続性、食料の安全性の証明—内水面漁業と養殖漁業に焦点を

(2019・9・9)

連邦食料・農業省政務次官ミヒャエル シュトープゲンが、今日（9月9日）ドレスデンにおける、FAO 世界食料機構の諮問委員会（EIFAAC）のヨーロッパ内水面漁業と養殖漁業シンポジウムに参加した。

政務次官が説明した：持続性の基礎は、漁業と養殖漁業の分野においても、大きな意義を有している。我々は、次世代でも生きる価値ある世界で自由に使えるよう、資源を節度をもって利用しなければならない。特に食料の安全は、内水面漁業でも養殖漁業においても、重要な役割を演ずる。”魚はドイツの食料の確固たる構成要素である。そしてなお、健康が加わる。

同時に、我々は将来においても健康で安全な魚を生産し、合成物質の潜在的な影響、同じく環境—加工汚染並びに獣医薬と寄生虫が、このシンポジウムで焦点に据えられている。産物の遡及追跡が可能のために、そして食料の安全のためのマネジメントシステムについて、現在の発展のように”と、政務次官が続けた。適切な表示とシールは、さらに生産物と生産条件に関する情報提供に役立つ。”同時にこの表示は、生産物に対する消費者の信頼を強化する。消費者は、持続的な漁業からの産物を購入する際に、決定するための可能性をもっている”と、政務次官が述べた。

2019・9・14 訳

青森中央学院大学

中川 一徹